

絵本を一ページめくるごとに、子どもたちの顔が輝きを増す読み聞かせ。幼いころ感動し、時に涙した本が誰にもあると思います。心を癒やし成長を支え、生きる力を育てる本。しかし、近年、本を読まない子が増えています。本との触れ合いを大人はどう支援したらよいのでしょうか。本市の読み聞かせグループで、文部科学大臣表彰も受けた「萌えぎの会」。その代表を務める小山あつ子さんに話をお聞きしました。(担当は市民編集委員・大沢、諸岡)

問い合わせは市立図書館 ☎ 224-4311 へ。

親子共通の時間を

「読み聞かせ」が大切です

昭和43年に発足した「萌えぎの会」市立図書館で40年間活動

「萌えぎの会」は昭和四三年に発足。「普段、言葉に表せない思いを本の中の言葉や絵を借りて、子どもたちへのメッセージとして伝えたい」という思いで始めたそうです。市立図書館で四十年近く活動しています。現在、乳幼児から小学生を対象に「お話の会」を毎月第二・第四土曜に実施。また、保育所や学校、高

父親も積極的にかかわって 家庭で本に接する機会を

家庭の中で、絵本の読み聞かせを親が実践していくことが大切。子どもの本離れは大



毎月2回開かれる「萌えぎの会」の読み聞かせ（市立図書館で）

子どもと一緒に本を読んで

大きくなって読書嫌いにさせないように

「おすすめ絵本リスト」も 本選びは子どもを優先に

読書に慣れていない人、初めて読み聞かせをする人には、「おすすめ絵本リスト」が便利。三歳までの乳幼児を対象に親子で読書を楽しめる本を選びました。このリストは市立図書館、地区公民館や総合教育プラザの図書室などで配布しています。ここで働く職員が意見を出し合い、作成したそうです。



市立図書館などで配布しているリスト

本文だけでなく全部見せましょう 表紙や作者の名前なども

文章の読み方にも迷いますが、家庭での読み聞かせでは、特に誇張した感情移入は必要ありません。自分が感じたま

子どもは「萌えぎの会」と小山さんは話しています。まずは、自然に本と接することのできる環境を作ることが大事。本を読みながら、親子共通の時間をできるだけ長く持ちたいものです。もちろん、母親任せではなく、父親も積極的にかかわらなくてはなりません。しかし、親は本選びや読み方に悩み、苦労します。親が

「萌えぎの会」は昭和四三年に発足。「普段、言葉に表せない思いを本の中の言葉や絵を借りて、子どもたちへのメッセージとして伝えたい」という思いで始めたそうです。市立図書館で四十年近く活動しています。現在、乳幼児から小学生を対象に「お話の会」を毎月第二・第四土曜に実施。また、保育所や学校、高

良い本との出会いを子どもに 参加しませんか入門講座

最近、子どもを取り巻く社会環境は悪化し、安全面から学校帰りに自由に図書館や書店に入り、本に接することができなくなっています。こうした時代だからこそ、家庭だけでなく地域や学校、図書館などが協力し連携し合って、良い本との出会いの機会を子どもたちに与えていく必要があります。



2月2日に行われた入門講座

共通の時間を作り、感性を豊かにしていくことが、次世代を担う子どもたちの成長に欠かせません。次のとおり、入門講座も開かれます。皆さんもぜひ、絵本の世界を楽しんでみませんか。

□読み聞かせ入門講座
次の四つの児童館を会場に読み聞かせ入門講座を開催します。参加は無料です。

日時Ⅰ ①3月3日(土)午後2時～3時 ②3月6日(火)午前10時30分～11時30分 ③3月7日(水)午前11時～正午 ④3月14日(水)午前10時30分～11時30分

会場Ⅰ ①は大友児童館 ②は日吉児童館 ③は下小出児童館 ④は柏川児童館

対象Ⅰ 一般、先着各四十人

内容Ⅰ 読み聞かせの基礎 申し込みⅡ 当日会場へ直接